

景観整備のポイント

歩行者の回遊を快適なものとするため、石段から橋へ伸びるそれぞれの小路の特性を生かした景観整備を行う。
地場産の石など「本物」を用いた舗装とし、風合いが揃うように、また場所によっては草の生える隙間を生む。ディテールにより、ほっとしたみちになるよう工夫したい。



現状特性：
深く刻まれた路地の向こうに開放的なメイ
ンストリート/自然の山と沢へつながる急坂

石段街 緑と灯りのスポット整備 試案例

見えがかりの緑が少なく、路面店が少なくないため明かりの寂しい石段街中段から下段のエリア。スポット的に緑と明かりを配置し、しっとりとした華やかな石段街の雰囲気を出し出す。

- ・高木及び低木、地被植栽
- ・低い灯り(灯籠)の設置



景観歩道 ～石段街から裏斜面へ抜ける路地～



湯の香温泉広場 試案例

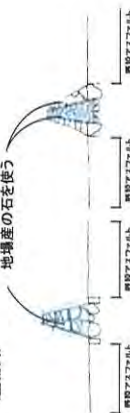
現在ある共同風呂と運搬を回り足湯のある広場を整備。足湯の傍で湯は坂を介して神社の池へと落ちる。最終的に川へ放流。
※緑にはないが植栽を行う整備とする

物間橋香湯線支線4号(弁天坂) 試案例

車の乗り降り中央部分に開渠を整備。湯が見えることで温泉街らしさを感じるばかりでなく、冬には融雪補助の役割を果たす。

- ・開渠(捨て湯水密)整備
- ・老朽化した橋の改修(木橋とする)

(整備例)



斜面林高台に休憩スポット

急坂の途中休憩スポット。林越しの向山を眺める。

- ・ベンチ設置、間伐/枝打ち程度。

伊香保景観写真発見

P-1



P-2



P-3



〈景観歩道 まちの系 試案例集〉

- A7石段街横丁広場
- A8湯の香温泉広場
- A14物間橋香湯線支線4号
- A16物間橋香湯線支線3号
- A17湯の香温泉支線2号
- A18湯の香温泉支線1号
- A19物間橋香湯線支線4号
- 石段街神社下広場施設整備

現状特性：くねる道の向こうへといくぞう路面店、眺望。
石段街からまちの駅へ階段無しでつなぐ路地/裏通り。



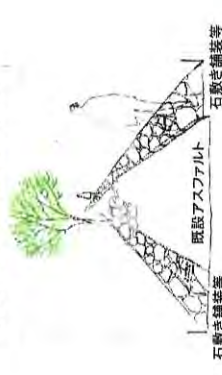
景観歩道 ～横丁/裏通り～

石段街東側横丁路地 試案例

濃い影を落とす横丁、低い建物の並ぶ明るい裏通り。
「老朽化したアスファルト舗装の補修に納め、道路わきに帯状に石を埋め込むなど歩行者の目に楽しく、かつ歩きやすい道路に再整備する。

- ・歩行者空間の石敷舗装等改修整備
- ・老朽化した橋の改修
- ・ポイント植栽(高木、低木、草花)

(整備イメージ) 奥へ通かれる雰囲気作り



地場産の石を使う



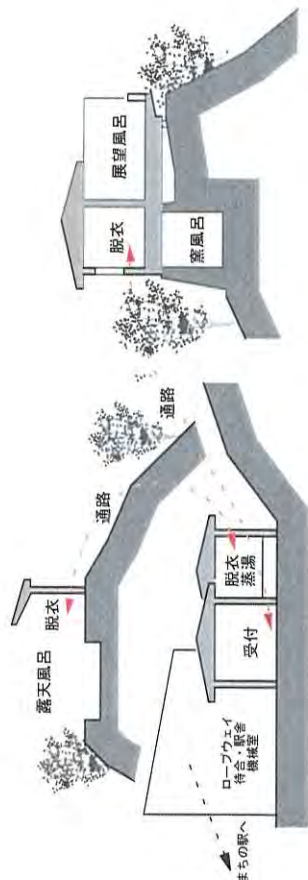
石段街横丁広場 試案例

現在の屋根付駐車場を解体し、タウンバス乗降ローターとする。
※緑にはないが植栽を行う整備とする



景観整備のポイント

- ・2箇所の展望広場における現況施設は眺望のよい立地を十分に活かしてない。ポテンシャルを生かした整備とすることが重要である。
- ・地形を利用した施設配置をしたい。
- ・温泉施設については、江戸時代から二ツ峠の麓で親しまれた蒸風呂、蒸風呂の入り方を踏襲したものを小規模に展開する。
- ・上ノ山公園は完成した形で存在している。眺め等を考慮した間伐や枝打ち、下草刈りなど維持管理程度の整備とする。

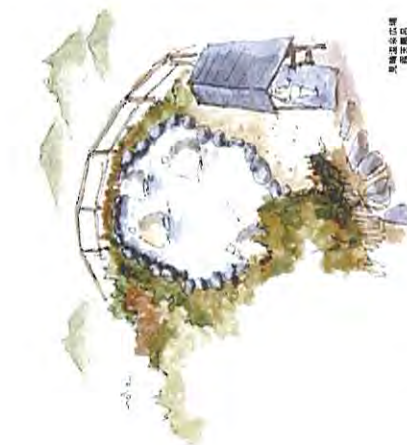


受付/蒸湯

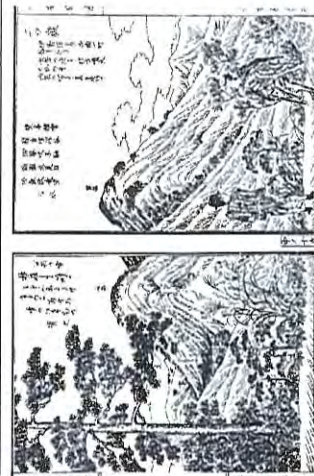
露天風呂

蒸風呂/展望風呂

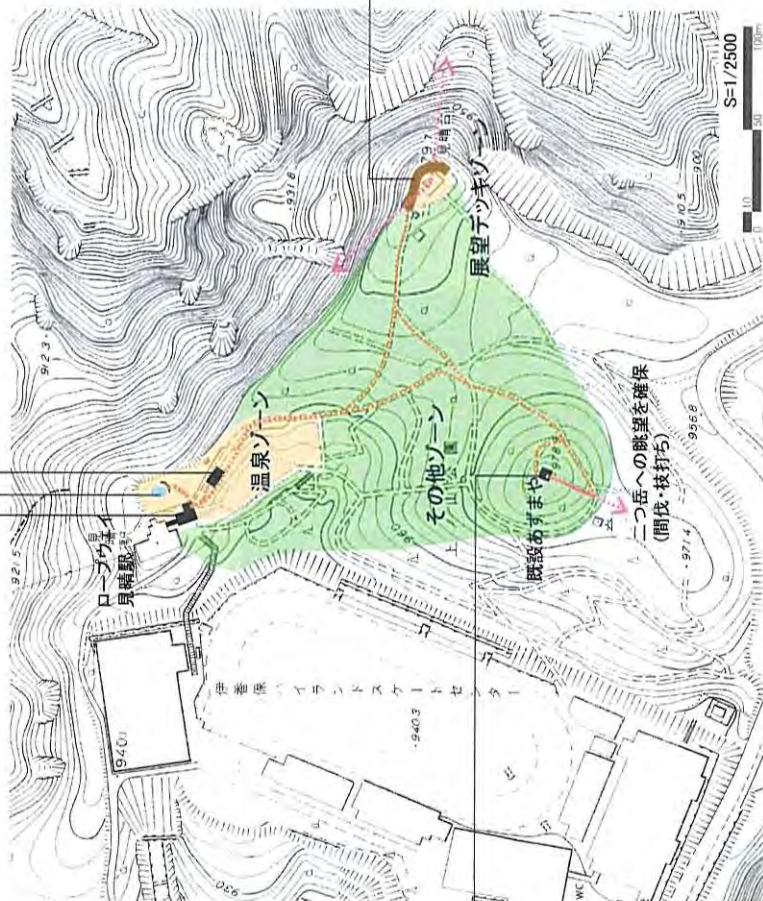
※小さな温泉施設を配置する公園的整備は昔の蒸し風呂のあり方に習うことが出来る。



二ツ峠の眺め



出典：伊藤保志(明治17年)



出典：伊藤保志(明治17年)

展望デッキ



伊藤保志(明治17年)

景観整備のポイント

湯沢エリアには林間に遊歩道を通し、散策が楽しめる場所を作る。
温泉公園エリアは湧き出た湯のせせらぎ整備を芯に、自然にゆったりと源泉の湯に親しむ場所としたい。
神社参道は、静かで厳かな雰囲気を作るためにも、要らないものを取り除いたシンプルな空間としたい。



貯水槽設置
新温泉の心臓部であり、
あえて隠さず見せる考え方もある。

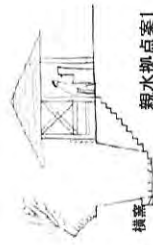


1/3程度を木板で化粧

高木を新橋



既設擁壁の化粧整備イメージ



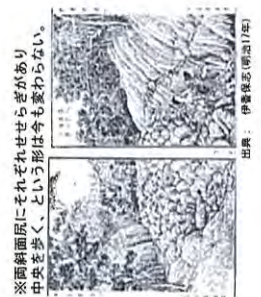
貯水拠点案1
※一つの空間的まとまり
の中の野水



貯水拠点案2
※ゆったり下りられる

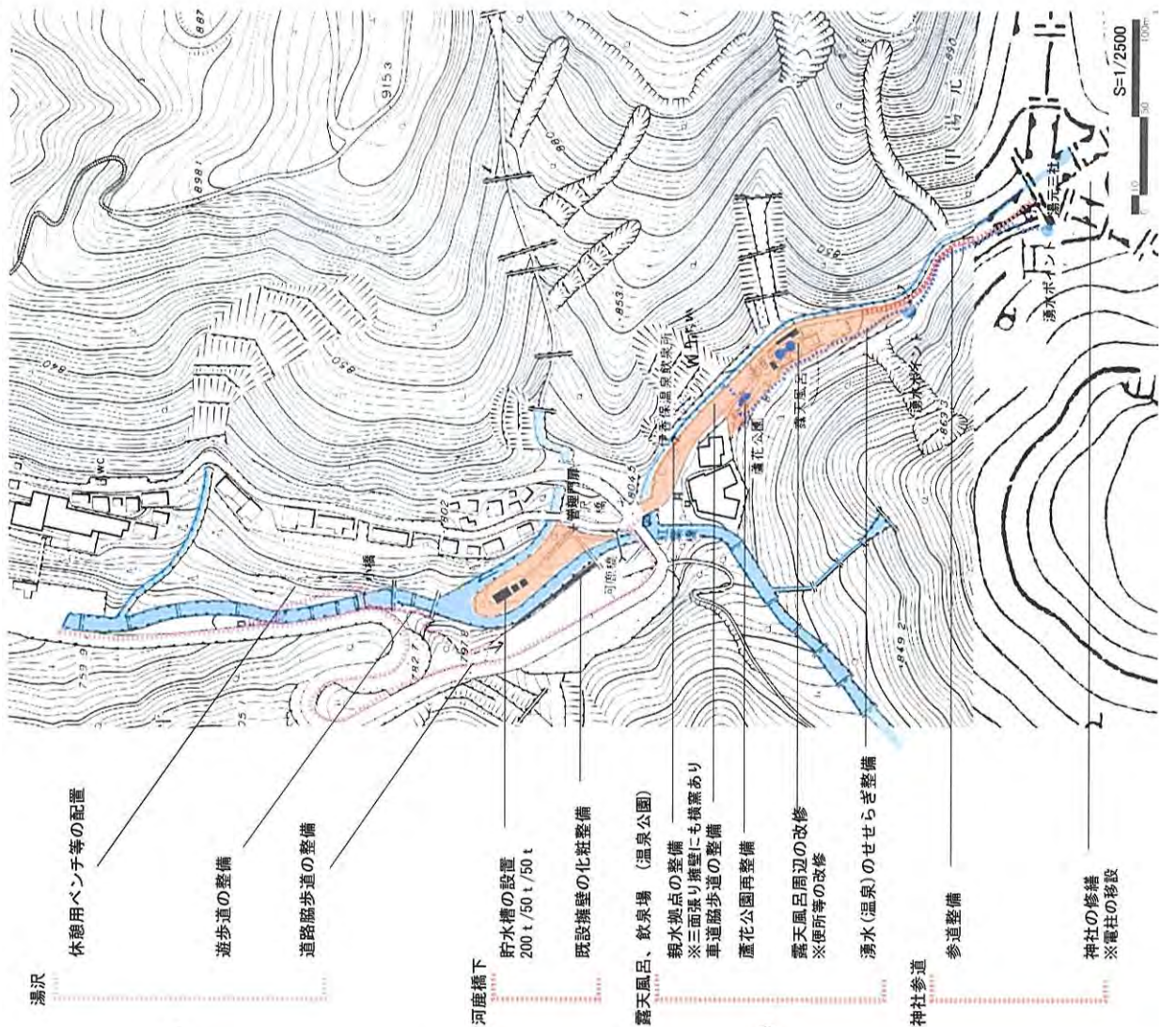


せせらぎ整備イメージ
自然の土の上を流れ、
石を置く程度で流れをコントロール



※両斜面尻にそれぞれせせらぎがあり
中央を歩く、という形は今も変わらない。

出典：伊香保(明治17年)



2. 伊香保温泉の魅力づくり

- ・旅行者のニーズをふまえて、単に温泉の泉質だけにとどまらない、伊香保温泉ならではの魅力を総合的に発揮していく。
- ・特に、伊香保ならではの温泉まちとしての情緒や雰囲気を高める上で、シンボルである「石段街の賑わい」の回復や「まちあるき」の誘導、住民が一体となった「おもてなし」などに重点的に取り組み、再生への一歩とする。

(1) 伊香保温泉のイメージ発信

1) 眺望等を活かしたイメージづくり

①眺望を活かしたアピール

- ☐眺望ポイントの選定とイメージづくりへの活用
- ☐選定した眺望ポイントの魅力づくり

②分かりやすいイメージの発信

- ☐シンボルマークやコピーの作成

(2) 伊香保ならではの温泉とまちの楽しみ方の提供

1) 伊香保ならではの湯めぐりの魅力づくり

①「湯めぐり」の楽しみ方の提供

- ☐「湯めぐり」を楽しめる仕掛けづくり

②「共同湯文化」の育成

- ☐共同湯づくり
- ☐共同湯の管理運営計画の検討

2) 多様な客層に対応した宿泊・滞在の商品化

①旅行者ニーズに対応した旅館の魅力づくり

- ☐旅館の個性化・選択性の高いサービスの提供

3) 石段街を舞台とした芸術・文化の発信

① 石段街を舞台とした芸術・文化の発信とにぎわいの回復

☐石段街を舞台とした文化イベントの展開ー石段街劇場（仮称）ー

- ・既に実施しているイベント等を軸に、さらに充実を図り、イベントリンクしていくことにより、「いついっても何かをやって賑わっている石段街」を創り出す。
- ・ひな祭りや伊香保祭り、大道芸、伝統芸能などの路上披露、朝市の開催など
- ・バラエティに富む小さなイベントを連続的に開催する。
- ・石段街での各種イベントを総合的にプロデュースする組織・体制をつくり、各イベントは各関係者で実施できる体制をつくる。
- ・付加価値を高める演出を行う。

- ☐ 空き店舗等を活用した文化の発信
- ☐ 伊香保の文化を紹介する常設の場の検討－伊香保芝居小屋構想（仮称）－

4) まち歩きが楽しめる魅力づくり

①テーマ別まち歩きマップや歩く仕掛けづくり

☐ 「テーマ別まち歩きマップ」の作成と活用

- ・伊香保町作成のベースマップ（電子データ）を活用して、目的に応じてまち歩きが楽しめる使いやすいマップを作成する。（食編・土産物編・夜の町編など）
- ・住民などからの情報も加え、どこに何があるのか、いつどこで何ができるのかといった町歩きが楽しくなるマップとする。
- ・作成したマップは、まちなかの観光案内所や休憩所、各旅館、交通拠点などに設置し、来訪者が興味に応じて利用できるようにする。
- ・または住民にも配布し、まち歩きとまちへの興味を促す。

☐ まち歩きの仕掛けづくり

- ・歩くことで得られるインセンティブの仕組みづくりをする。
（例）「まちあるきビンゴ」（テーマごとに、見つけたもので穴をあけるビンゴを作成）
（例）QRコード（携帯電話の写真で取り込めるモザイク状のもの）を活用したオリエンテーリング
- ・マップの柄入り「ランチョンマット」を作成し、旅館や飲食店等で利用する。

- ☐ I Tを活用したまち歩き情報の提供

5) 伊香保ならではの滞在プログラムの提供

①周辺地域と連携した滞在プログラムづくり

- ☐ 滞在プログラムづくり

6) 魅力ある「食」や「特産品（逸品）」に出合える場づくり

①地域の食材を活かした食体験の提供

- ☐ 地域の食材を活かした料理の提供
- ☐ 選択性のある食の提供（伊香保どこでも店屋物）
- ☐ 「食」をテーマとした話題づくり（イベント）

②地域の特産品に出会える場づくり

- ☐ 空き店舗等を活用した地域の特産品ショップの誘導

7) 温かく迎えるおもてなしの具現化

①温かさの伝わるおもてなしへの取り組み

☐ 休める場やもてなしの雰囲気づくり・ホスピタリティ意識の醸成

- ・旅館のロビーやいたる所で休める場づくり
- ・ていねいな情報サービスや道案内（観光関連産業に携わる者だけではなく、住民全体で観光客をもてなす意識の醸成）

- ☐ 観光番の整備

3. 伊香保温泉の再生に向けた推進体制づくり

- ・今後の伊香保温泉の再生に向けた各種事業を推進していくためには、官民が役割分担と今以上の連携を図りながら、着実かつ効果的に取り組んでいくための推進体制を整える。
- ・特に、これからの伊香保温泉の再生の目標は、より観光客（来訪者）の視点にたった施設や環境、サービスの具現化と、観光地に暮らす地域住民の誇りや生活の質の向上によって伝わる来訪者への日常的な「もてなし」の上に実現されるものであり、「観光」と「まちづくり」をより一体的に推進していく体制づくりに取り組む。

(1) 観光とまちづくりの一体的な推進

①観光とまちづくりを一体的に進めるための民主導の体制づくり

□観光とまちづくりを一体的に推進するための民主導の体制・組織づくり

○行政及び既存観光関連組織、まちづくり組織（活動団体）の既存の役割・機能・活動内容を整理する。

（どのような組織が何をやっているか、重複する取り組みはないか、等）

- ・行政（町）、伊香保温泉観光協会、伊香保温泉旅館協同組合
- ・伊香保町まちづくり会議、伊香保温泉品質向上委員会
- ・まちづくり組織（各地区）
- ・その他活動団体（伊香保町ガイドの会等）

○今後の伊香保温泉の魅力創出に必要な機能を検討する。

- ・観光戦略の立案（企画、マネジメント）
- ・広域的な連携（連絡・調整）
- ・町内関係組織間の調整
- ・誘客・プロモーション・情報発信
- ・イベントの企画・実施
- ・観光情報提供（案内、情報ツールの作成等）
- ・観光商品の開発・予約・手配
- ・景観・環境整備（修景）
- ・各種施設の整備・管理運営
- ・まちあるきや体験プログラムの提供
- ・おもてなし意識の醸成・教育 等

○効率的に予算、人材を活用し、観光とまちづくりを一体的に推進していくための望ましい組織・体制のあり方を検討し構築する。

- ・機能と組織のあり方（機能の一元化～組織的な統合）
- ・組織形態のあり方
- ・適切な人材の配置・確保

III 景観編

〔伊香保町景観計画および中心市街地地区景観ガイドラインの策定〕

1. 景観計画の策定

- ・伊香保温泉の再生を図る上では、近年の目の肥えた観光客にも評価されるような、魅力ある温泉地景観を創出することが不可欠である。
- ・特に温泉地らしさという点で、石段街等の歴史資源や温泉資源、自然環境、温泉街等を効果的に活かした個性的な景観整備を進めていくことが必要となる。
- ・このような観点に立って、伊香保町全体に関して景観特性によるゾーン区分を行い、各ゾーン毎の景観整備の方向性を整理する（都市景観ガイドプラン）と共に、重点的かつ先行的に整備を図るべきゾーンとして「温泉市街地ゾーン」を設定し、このゾーンに関わる景観ガイドラインを策定した。

2. 伊香保町都市景観ガイドプラン

(1) 都市景観形成の目標

- ・伊香保町の都市整備の計画目標および総合計画に示された伊香保町の将来像を踏まえ、伊香保町の将来に向けた地域景観形成の目標を次のように定める。

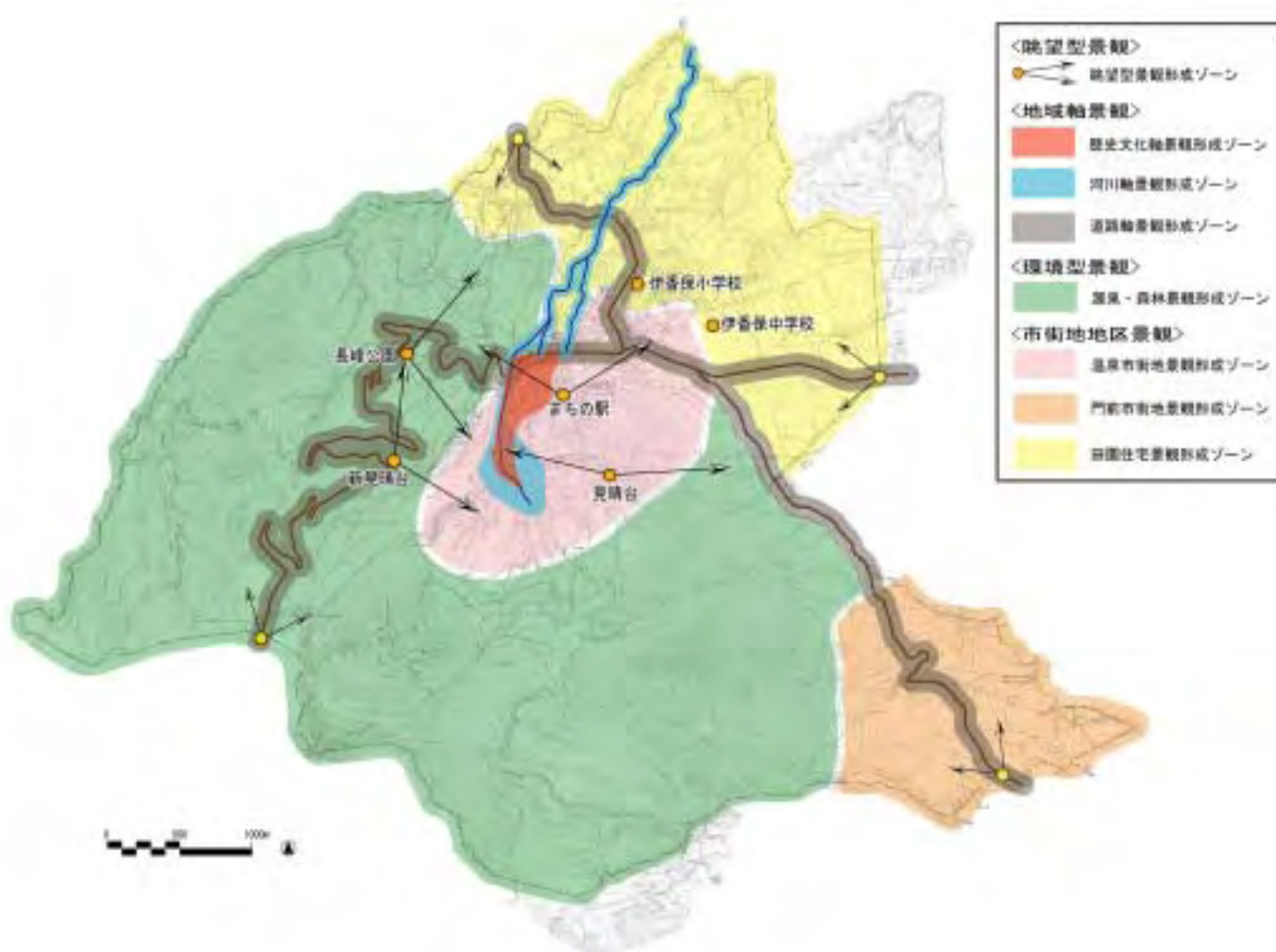
＜伊香保町における地域景観形成の目標＞

榛名北麓の杜から湧き出でる恵み豊かな湯に生まれ、万葉の代から培われた温泉の歴史と文化とを礎として、榛名山の豊かな自然に囲まれた石段街の街並みと水沢観音の門前街、そして北方の山並みを望む雄大な眺望景観を活かし、**「趣と風格、そして心の温もりを感じさせる温泉まちの景観を創造する」**。

(2) 景観形成ゾーンの設定

- ・伊香保町の地形や植生、土地利用の現況や都市計画の用途地域と整備方針、そして景観特性と景観類型別資源の現況等を組み合わせ、今後の景観形成のタイプ毎に「景観形成ゾーン」を設定し、各ゾーンに関わる景観形成指針をとりまとめる。

景観形成ゾーン



3. 温泉市街地ゾーンの景観ガイドライン

- ・以下では、伊香保町の中心市街地であり景観整備の緊急性の最も高い「温泉市街地地区」に関する景観ガイドラインの検討を行う。

(1) 景観構造の分析と評価

①温泉市街地の景観構造

- ・榛名山北麓の傾斜地に立地する伊香保温泉街の成立は、約 430 年前の 16 世紀の武田領の時代と言われており、湯元から温泉を引き石段街を造成して、石段の左右に温泉宿が整備された。
- ・伊香保温泉は、江戸時代から明治、大正、昭和と繁栄拡大を続け、明治以降は石段街の東地域や、さらに北部地域に温泉街が拡大し、現在の温泉市街地の構造は昭和 40 年頃に定まった。
- ・石段街を中心とする旧市街地は、戦国期からの長い年月をかけて形成されてきたため、自動車利用には不適ではあるが傾斜地を克服する緻密な街路構造ができあがっている。
- ・一方、新市街地は、傾斜地であるにもかかわらず自動車の進入を比較的容易にする道路パターンとなっているが、歩行にはあまり適さない道路が多い。

- ・今後の伊香保温泉の発展にとっては、市街地を取り巻く斜面緑地と北方に広がる山岳パノラマ景観は、都市住民の再訪を促す上で重要な役割を担う自然景観素材であり、適切な保全活用策が講じられていく必要がある。
- ・新旧市街地を図示すると、下図のようになり、新市街地は幹線道路によってさらに2分される。

温泉市街地ゾーンの景観区分



伊香保温泉街の三方を取り巻く斜面緑地。この緑の量感が市街地景観の無機質なイメージの緩和と、潤い感の提供に重要な役割を担っている。

②温泉市街地ゾーンの景観評価と課題

- ・伊香保温泉は、歴史のある温泉地であるだけに、温泉市街地内には歴史性や由緒を感じさせる魅力ある景観素材が多数存在し、また、寒冷地の北向きの傾斜地に形づくられた温泉街市街地にもかかわらず、克雪や緑の育成などにも不断の努力が払われてきており、これらの点に関しても評価すべき点は多い。
- ・しかし、時代や社会の変化と共にさまざまな景観的な問題が次第に顕在化しており、特に近年は欧米の観光地を体験した目の肥えた都市住民が増加する中で、乱雑な看板類や街並み、固有の文化景観の悪化や温泉情緒の欠如等への不満が頻出する傾向にある。
- ・このような観点から温泉市街地ゾーンの景観課題を概略整理すると次図のようになる。

(2) 地区景観形成の目標と方針

<温泉市街地ゾーンの地区景観形成の目標>

- ・伊香保町の景観の現況と課題を踏まえ、温泉市街地ゾーンにおける景観形成の目標を次のように設定する。

《目標》

万葉の代から培われた伊香保温泉の歴史と文化とを礎として、榛名山麓の杜に囲まれたのびやかな斜面を活かし「**自然風致と眺望、歴史文化と風格、そして温泉情緒と心の温もりを感じさせる、魅力ある温泉市街地の景観を創造する**」。

- ・伊香保町全体の景観形成の目標は「趣と風格、そして心の温もりを感じさせる温泉まちの景観を創造する」ことであるが、中心市街地である温泉市街地においては、さらに誘客の魅力要素ともなる歴史文化性や温泉情緒がより強調されるべきと考えられる。
- ・したがって、これらの要素も含めた多様な視覚的な魅力を持つ目標像を設定し、質の高い温泉地景観を目指すことを目標とする。

<地区景観形成の方針>

- ・温泉市街地ゾーンの景観形成の目標を達成するため、次のような景観形成の方針を掲げる。

《方針》

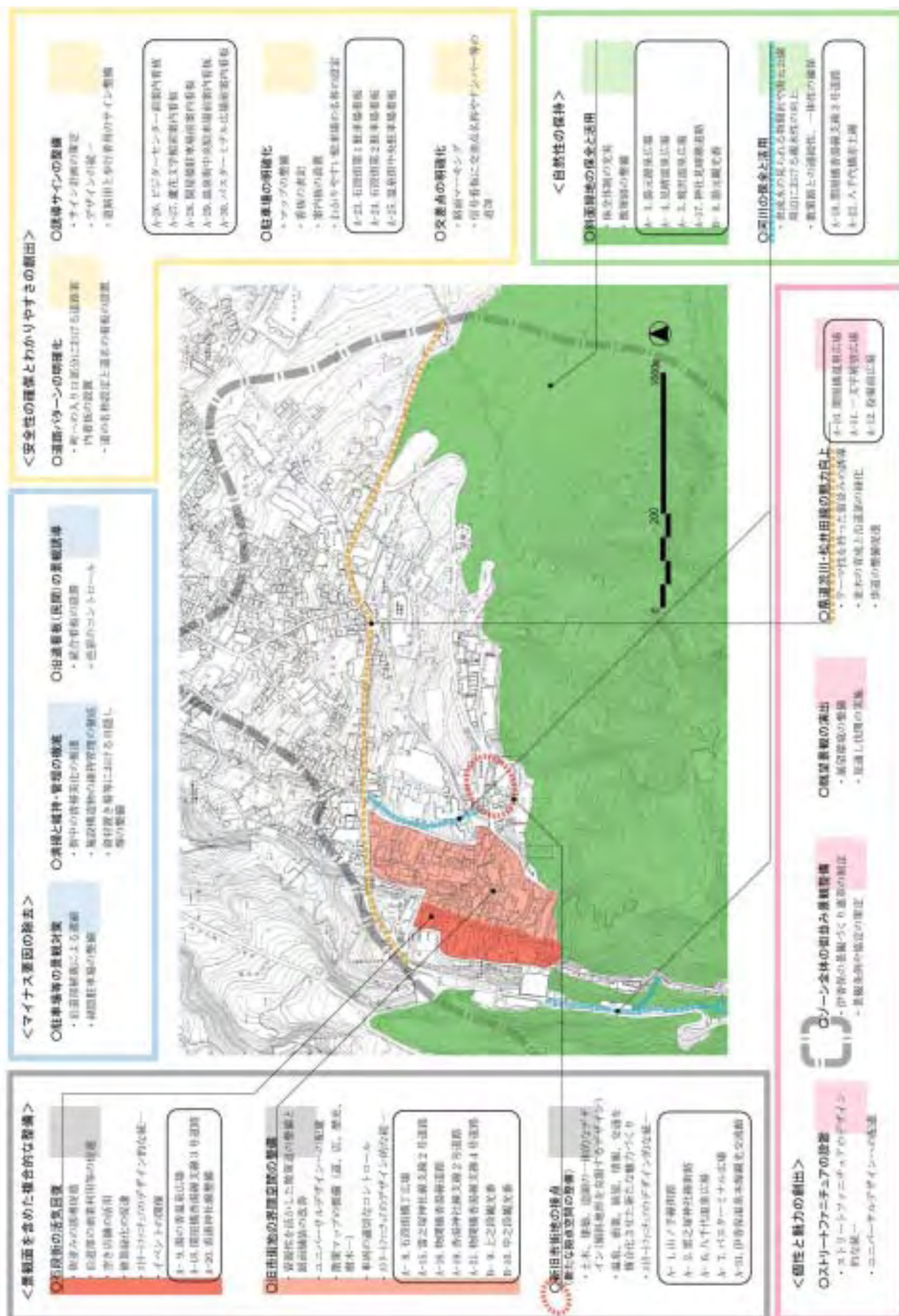
- ①温泉街の街並み景観の向上を図る
- ②美しく快適な環境づくりを進める
- ③四季・昼夜間を通じた光の魅力づくりを進める
- ④温泉市街地の統一イメージとして大正浪漫への配慮を図る
- ⑤観光拠点としての石段街の魅力向上を図る
- ⑥領域の明確化やわかりやすさに配慮し、交差点やまちの出入り口を特色づける
- ⑦自動車、歩行者への景観的な対応を図る
- ⑧規制、誘導方策を検討する

- ・温泉市街地の長期的な発展を図るため、長期的な視点の基に上記の方針を掲げている。
- ・これらの方針には、ただちに取り組むことが困難なものも含まれているが、少なくとも先に挙げた目標を形骸化させないという姿勢を明らかにする意味から、必須の留意事項を示したものである。

(3) 温泉市街地ゾーンの景観ガイドライン

①景観整備の方向

- ・温泉市街地ゾーンの景観評価と課題を踏まえ、景観形成の目標と方針に対応した景観整備の方策を整理すると以下のようなものとなり、その概略を図示する。



IV 自然活用編

〔伊香保森林公園地区整備方向の検討〕

1. 伊香保森林公園地区の利用状況の分析

(1) 位置と立地条件

- ・調査対象地は、伊香保温泉市街地に近接する県立伊香保森林公園（224ha）と、隣接する都市公園の上ノ山公園（10ha）である。

対象地区の範囲



2. 伊香保森林公園地区の利用促進方策の検討

(1) 整備の基本的な考え方

■整備の目的

- ・本調査は、「従来型温泉地再生戦略」の策定において、伊香保温泉における滞在のための魅力向上策の一環として、温泉街の背後にある伊香保森林公園地区の整備方向を検討するものである。
- ・同時に、これまで伊香保森林公園地区が担ってきた、「保健」「休養」「学習の場」としての機能を維持・強化するための整備を行い、県民の利用を促進することも目的の一つとなる。

■主要なターゲット

- ・本計画において、狙うべき主要なターゲットは、整備の目的に沿って以下のようなものが考えられる。
 - ①伊香保温泉の滞在客：主に地域の自然・歴史・文化等を散策で楽しみに訪れる
 - ②日帰り観光客：主に自然風景やパノラマ景観を楽しみに訪れる
 - ③レクリエーション客：主に県内からハイキング・ピクニック・スケート等に訪れる
 - ④県内小中学校の児童・生徒：主に自然環境学習に訪れる

■課題の整理

- ・前述の整備状況を踏まえ、上記の整備目的を達成するための課題を、以下に整理する。

①温泉滞在・滞留客利用の受け皿と受け入れ体制の整備

②新たな自然学習拠点の整備（移転）

③伊香保温泉からの周遊性の確保

④老朽施設の改修・整備

⑤管理運営体制の充実化

(2) 利用促進方策の検討

- ・以上の検討結果を踏まえ、伊香保森林公園地区で展開すべき利用促進方策を示すと、表のようになり、想定される概略の配置は図のようになる。

森林公園地区の利用促進方策の施策体系

伊香保森林公園地区の利用促進方策	検討すべき施策	施策の内容
	①蒸湯施設の整備	・スケートリンク付近で整備が検討されている引湯・加温施設による温泉を活用して、伊香保温泉の滞在客を誘客する目玉施設として、かつて森林公園内で利用されていた蒸湯を現代風に再現することを検討する。
	②森林学習センターの整備	・県道前橋・伊香保線沿いにある「憩の森・森林学習センター」の機能を移し、当該地区に拠点施設を整備する。 ・公園管理や、来訪者への情報提供を行うと共に、ボランティアガイドを配置して自然体験プログラムの活動拠点施設とする。 ・展示コーナーを設け、再来訪を促すために、園内で観察できる花の紹介や、自然体験プログラムの開催状況をビジュアルに展示する。
	③ロープウェイの利用促進	・見晴駅待合所に、町内一見晴らしの良いカフェを併設すると共に、ロープウェイ見晴駅にライブカメラを設置し、不如帰駅で眺望の良さをアピールする。
	④休憩・展望園地の補修・整備	・既存の園地からの眺望を確保するために、二ツ岳や遠景が期待できる北方向の見通し抜開を行うと共に、ベンチ、休憩舎などを適宜補修・整備する。
	⑤アクセス路等の充実	・利用者の多様なニーズに対応するため、温泉街から伊香保森林公園地区に至る多様なアクセスルートを確認する。 ・園内の歩道や安全柵などを、必要に応じて補修・整備を行う。
	⑥サイン類の補修・整備・統合	・園内を迷わずに巡れるように、サインシステムの補修整備と充実を図る。
	⑦自然体験・学習プログラムの実施	・森林学習センターを拠点として、年間を通じて様々な自然体験プログラムを実施する。拠点施設の運営主体と町内関係機関が連携し、ターゲット別にプログラムの充実化を図る。 ・滞在客向けのプログラムは、観光協会や旅行会社等と連携して、エコツアー、俳句・短歌教室、写真教室、絵手紙教室などを開催する。
	⑧情報提供システムの充実	・主要なターゲットに、伊香保森林公園地区の施設や自然体験プログラムの内容を認知してもらうために、インターネットサイトやパンフレット類などの各媒体における情報内容の充実化を図る。

図 施設整備等の配置イメージ図

森林学習センターを拠点とした
自然体験・学習プログラム

- ◆森のクラフト教室
- ◆植物観察会
- ◆野鳥観察会
- ◆森の昆虫観察会
- ◆ネイチャートレイル

- ◆星座観望会
- ◆森の恵みウォーキング
- ◆絵手紙教室
- ◆写真撮影会
- ◆風穴ウォーキング

施設整備等の配置イメージ図

凡例

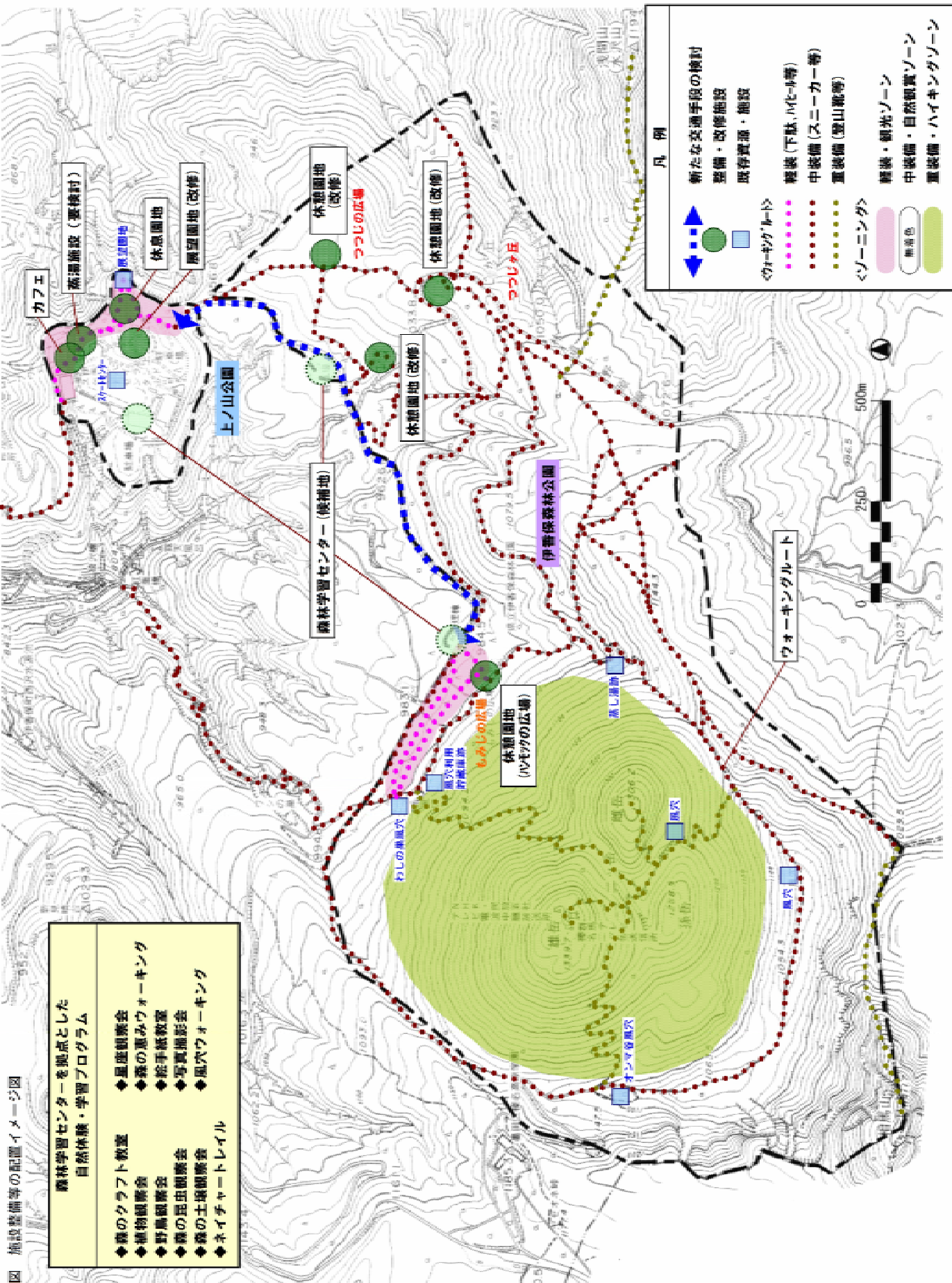
新たな交通手段の検討
整備・改修施設
既存資源・施設
軽装(下駄、ハイク等)
中装備(スニーカー等)
重装備(登山靴等)

ウォーキングルート
ゾーニング
無着色
軽装・観光ゾーン
中装備・自然観察ゾーン
重装備・ハイキングゾーン

上ノ山公園
伊賀森林公園
森林学習センター(候補地)
休憩用地(改修)
休憩用地
カフェ
蒸湯施設(要検討)
眺望用地
つっしらの広場
いみじの広場
休息用地(バベットの広場)
風穴利用
野鳥観察
おしの風穴
黒し湯助
風穴
オシマ谷風穴

0 250 500m

- 森林学習センターを拠点とした
自然体験・学習プログラム
- | | |
|------------|-------------|
| ◆森のクラフト教室 | ◆星座観察会 |
| ◆植物観察会 | ◆森の恵みウォーキング |
| ◆野鳥観察会 | ◆絵手紙教室 |
| ◆森の昆虫観察会 | ◆写真撮影会 |
| ◆森の土壌観察会 | ◆風穴ウォーキング |
| ◆ネイチャートレイル | |



(3) 活動メニューの整理

- ・以上の検討結果を踏まえ、伊香保森林公園地区で展開可能な活動メニューとしては表のようなものが考えられ、森林公園地区においても年間を通じた滞在支援メニューが提供できることになる。
- ・また、観光客の足固めの違い（履き物の種類）によって立ち入ることの出来る範囲やルートを整理すると下表のようになる。

森林公園地区で楽しめるメニューの例

		楽しめる時期 (: 最適、 : 適)												備考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
施設	蒸湯													
	森林学習センター													
	展望カフェテリア													
	スケートセンター													10 中～3 下
自然風景	つつじヶ丘・つつじの広場													5 中～6 上
	もみじの広場													10 下～11 中
	カラマツの林													
シート	ハンモックの広場													
	休息広場													
自然体験・学習プログラム	森のクラフト教室													
	植物観察会													
	野鳥観察会													
	森の昆虫観察会													
	森の土壌観察会													
	ネイチャートレイル													
	星座観察会													
	森の恵みウォーキング													
	絵手紙教室													
	写真撮影教室													
	風穴ウォーキング													

履き物別森林公園内の散策路区分例

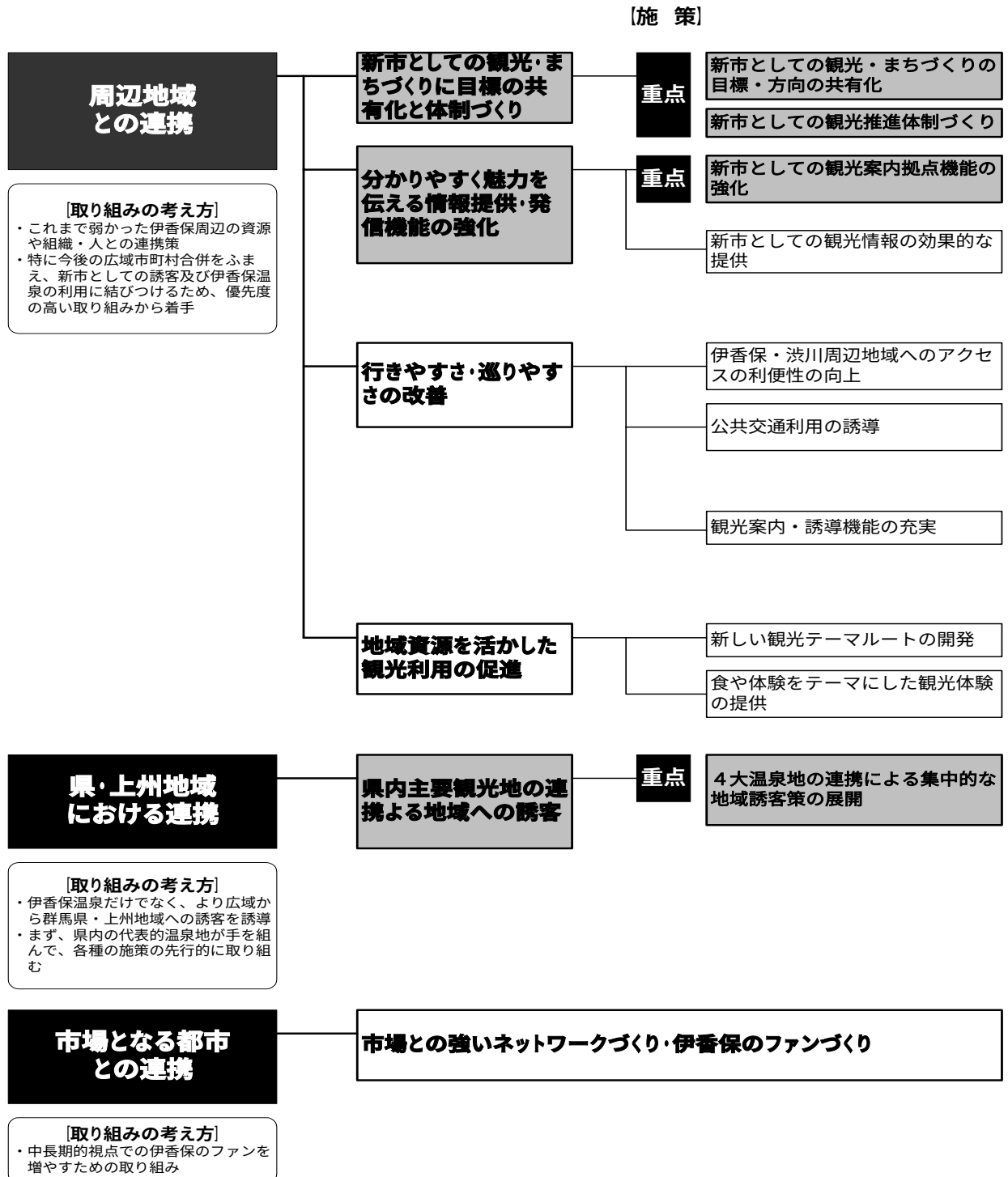
足もと	散 策 路
①軽装 (下駄、ハイヒール) 【バリアフリー対応を進める】	・温泉街ー見晴駅ー蒸湯ー見晴展望台ー上ノ山公園南側駐車場 ・見晴駅ースケートセンター ・森林学習センターーもみじの広場
②中装備 (スニーカー、運動靴)	・温泉街ースケートセンターー森林学習センター ・森林学習センターーつつじの広場ーつつじヶ丘ー蒸湯跡 ・もみじの広場ー蒸湯跡ーオンマ谷風穴ーわしの巣風穴
③重装備 (トレッキングシューズ、登山靴)	・オンマ谷風穴ー雄岳・雌岳ーわしの巣風穴 ・水沢観音方面 ・榛名山方面

V 広域連携編

〔広域連携による誘客方策〕

- ・広域連携による誘客に向けた取り組みの方策を以下に整理する。

＜広域連携方策の構成＞



1. 周辺地域との連携

- ・これまで弱かった伊香保温泉周辺の資源や組織・人との連携策により、新たな観光を展開する。
- ・特に今後の広域市町村合併をふまえ、新市としての誘客及び伊香保温泉の利用に結びつけるための連携策について、優先度の高い取り組みから着手する。

(1) 新市としての観光・まちづくりの目標の共有化と体制づくり

①新市としての観光・まちづくりの目標の共有化

□観光・まちづくり基本計画（マスタープラン）の策定

- ・広域市町村合併後の新市としてのこれからの観光振興を進めるためには、これまで個別に取り組んできた観光やまちづくりの方向や戦略をベースに、さらに目標や戦略を再構築して共有化を図りながら進めていく必要がある。
- ・伊香保温泉の再生の戦略、方策についてもその中で位置づけを進めていく。
- ・まずは、市町村合併のタイミングに合わせ、マスタープラン策定に取り組める準備をする。

②新市としての観光推進体制づくり

□観光推進の体制づくり

- ・観光・まちづくり基本計画（マスタープラン）の策定と併行して、新市としての観光の推進体制を整える。
- ・各市町村にある観光協会、旅館組合、商工会などの連携や組織としての一元化を図り、観光とまちづくりを一体となって進める体制をつくる。組織が有機的に連携することで、住民全体で効率的にまちづくりを進める。
- ・まずは、観光推進体制づくりに向けた、関係者協議の場を設置する。

(2) 分かりやすく魅力を伝える情報提供・発信機能の強化

- ・今後の広域市町村合併を契機として、新市として1つになる渋川や赤城などとより連携を図りながら、新市としての観光イメージの強化と効果的な観光情報の発信を行い、中心となる伊香保温泉のアピールをしていく。
- ・特に、伊香保温泉をはじめ、新市への玄関口となる渋川駅前への情報拠点機能の充実を図る。

①新市としての観光案内拠点機能の強化

□玄関口にふさわしい渋川駅前観光案内所の整備

- ・わかりやすい場所、もてなしにあふれた施設整備
- ・待合室のギャラリー化
- ・新市及び周辺の観光情報の一元化・提供
- ・もてなしの心にあふれたサービス・運営
- ・県内の他の観光情報拠点とのネットワークを強化し、情報の共有化とサービスの連携を図る

②新市としての観光情報の効果的な提供

- ☐新市のイメージづくり
- ☐観光情報ツールの統一
- ☐外国人旅行者への案内機能の充実

(3) 行きやすさ・巡りやすさの改善

- ・伊香保温泉は、東京から2時間程度で到達可能であるにもかかわらず、鉄道では高崎での在来線への乗り換えや駅からの2次交通への乗り換への不便さがあるため、車（マイカー）に比べ、から必ずしも行きやすいとはいえない。また、関東圏内でも群馬県は自動車分担率が高く、マイカー利用に偏重したアクセス手段は、シーズンによって伊香保温泉へのアクセス道路の渋滞を生み、イメージ、満足度の低下にも結びついている。
- ・このような現状課題を認識するとともに、今後、高齢者等にも安心して訪れてもらえる温泉地を目指し、関係者の協力のもと、公共交通・2次交通の充実を図る。
- ・冬季のハンディである交通条件（雪道、凍結等）を改善する。
- ・渋滞箇所の道路改良やバイパス整備等を促進する。
- ・車でのアクセスにおいても、高速道路ICなど交通結節点などでの誘導情報を充実させる。

①伊香保・渋川周辺地域へのアクセスの利便性の向上

- ☐交通アクセスに関する情報提供の充実
- ☐鉄道による渋川駅までの直通電車の魅力アップ「上野～渋川間」
- ☐東京など大都市からの直行バスの充実
- ☐高崎→渋川→伊香保の乗り換えハンディの軽減

②公共交通機関利用の誘導

- ☐タウンバスの充実・魅力アップ
- ☐温泉街周辺からのパーク＆ライドによる公共交通への誘導
- ☐新渋川市エリア内を巡りやすいバスルートの充実

③観光案内ポイントの充実

- ☐観光案内ポイントの充実
- ☐交通拠点・結節点における案内・誘導情報の充実

(4) 地域資源を活かした観光利用の促進

- ・広域市町村合併を機とした、新渋川市としての観光利用（その中での伊香保温泉の売り方）を明確にする。
- ・共通テーマ等で結ぶ周遊コースづくりをする。

①新しい観光テーマルートの開発

- ☐観光テーマルートの開発
- ☐広域観光マップ・年間カレンダー・周遊モデルコースの作成
- ☐温泉宿泊＋グリーンツーリズム
- ☐温泉宿泊＋芸術（文学・美術）のメッカ

②食や体験をテーマにした観光体験の提供

☐ 食や体験をテーマにした観光体験の商品化

2. 県・上州地域における連携

- ・伊香保温泉だけでなく、より広域から群馬県・上州地域への誘客を誘導する。
- ・まず、県内の代表的温泉地が手を組み、各種の誘客施策に先行的に取り組む。

(1) 県内主要観光地の連携による地域への誘客

- ・群馬県の温泉地イメージは高い（群馬県の温泉イメージは大分県に次いで2位である）。代表的な温泉地を中心に、群馬県の温泉のアピールと地域イメージ戦略を展開する。
- ・群馬の温泉を柱にしながら、行きやすさ、巡りやすさ、楽しさの提供など広域からの誘客に結びつけるための様々な方策（コンテンツ）に一体的に取り組む。

☐ 4大温泉地の連携による集中的な地域誘客策の実施

- 伊香保、四万、水上、草津の4温泉による「群馬4大温泉地会議」の開催（行政、観光組織、観光事業者などの参画）。
- 具体的に以下のような取り組みを進める。これらは、3～5年程度の期間をかけて、試験的な取り組み（社会実験）を行いながら、継続的に提供可能なサービス、体制へとつなげていく。

[取り組み例]

- ・4温泉共同プロモーションの実施（キャンペーン、地域連携イベント等）
- ・4大温泉共同による宿泊滞在プランの商品化
- ・4大温泉を拠点に上州地域をめぐる各種サービスの仕組みづくり
 - ◇地域共通フリーパス（鉄道、バス等）
 - ◇テーマ別周遊モデルコース（既存ルートの魅力アップ、新たなルート開発）
 - ◇テーマ別観光情報ツールの共同作成（パンフレット、マップ等 ※外国語版も含む）
 - ◇自由度の高いレンタカーシステム
 - ◇ルート間の観光案内情報の充実（4大温泉地情報、統一したサイン整備、沿道の修景）

3. 市場となる都市との連携

- ・大都市住民の田舎志向で周辺地域の資源を活用、伊香保の温泉ブランドと組み合わせて、都会人の第2のふるさとに位置づける。
- ・都会の子供をファンにすることで、将来的なりピート（次世代の子供のふるさと）につなげる。

(1) 市場との強いネットワークづくり・伊香保のファンづくり

- ☐ 姉妹都市住民などとの交流やファンづくり
- ☐ 姉妹都市住民やファンを対象とした「ふるさと保養温泉」会員制度の導入検討
- ☐ ふるさと保養温泉契約都市からの直通バス等の検討

伊香保町再生戦略委員会

(敬称略)

1. 町内再生戦略部会（地区検討体制）

(1) 観光産業関係者委員

① 伊香保温泉観光協会	会 長	千明三右衛門
② 伊香保温泉旅館協同組合	理 事 長	福田 朋英
③ 伊香保町商工会	会 長	高橋 太郎

(2) まちづくり関係者委員

① 第1区	区 長	齋藤 正雄
② 第2区街づくり活性化委員会	会 長	大森 隆博
③ かみなり坂を考える会企画委員会	委 員 長	岡部 克己
④ ちろりん坂を考える会	代 表	松本 侑起

(3) 学識経験者委員

① 前橋工科大学工学研究科	教 授	宮崎 均
---------------	-----	------

(4) 行政委員

① 群馬県都市計画課	課 長	野村二三夫
② 伊香保町建設農林課	課 長	高田 武
③ 伊香保町観光課	課 長	高橋 義明

2. 広域連携再生戦略部会（連携検討体制）

(1) 観光産業関係者委員

① 観光カリスマ	委 員	塚越 裕子
② 渋川市観光協会	会 長	神保俊二郎
③ (株)JR東日本企画高崎支店営業1部	部 長	中山 勉

(2) まちづくり関係者委員

① 前橋市市街地活性化研究会	事務局長	川鍋 正規
----------------	------	-------

(3) 学識経験者委員

① 高崎経済大学地域政策学部	教 授	戸所 隆
----------------	-----	------

(4) 行政委員

① 群馬県新政策課政策調整グループ	課長補佐	五十嵐靖男
② 群馬県観光物産課	課 長	関 卓榮
③ 群馬県渋川行政事務所総務経済部	部 長	野本 彰一
④ 榛名町商工観光課	課 長	塚本 博夫
⑤ 伊香保町	助 役	村尾 隆史